

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

6

2021年6月15日発行

公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 村井伸夫
編集人 / 松島晃子



2021夏 キャンプ&野外活動

「リアルな体験こそ、感覚や感性が心に届く」

「コロナ禍2年目の夏季キャンプがもうすぐ始まります。」

日本のYMCAは、1920年に六甲山麓で最初のキャンプが行われ、昨年、キャンプ100年を迎えました。「YMCA キャンプ100年」という節目の年であり、「コロナ禍」という状況のなかで経験するキャンプは、私たちがとってキャンプが子どもたちあるいは人に与える影響を考えるいい機会となりました。

2021年度のキャンプも、受け入れ先の定員が制限され、多くの子どもたちやリーダーたちと「リアルな体験」をする機会が制限されてしまいますが、現在計画しているキャンプが実施され、活動を共にした仲間たちと感動を共有できることを楽しみにしています。

ところで何故、YMCAはコロナ禍においてキャンプ・野外活動(アドベンチャー)を教育のツールとして大切にしているのか。

それは、キャンプや野外活動が子どもたちの「生きる力」を育むことに他なりません。「生きる力」とは、「いかに社会が変化しようとも、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質能力であり、また、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であり、そして、また、たくましく生きていくための健康や体力である」とされています。野外教育の最大の特徴は、自然の中で自然を活用して活動が行われる点です。

(第2面に続く)



「生きる力」を育むY M C Aの野外活動は、所定のトレーニングを受けた大学生や専門学生といった若者のリーダーと小グループ（6～8人）で活動します。同じグループにはお友だちがいたり、知らないお友だちがいたりします。そのようなグループで活動することが子どもたちを成長させます。一人の発した言葉が周りに影響を与えたり、みんなで考えることでいろんなアイデアが生まれたり、関係性によってグループがうまく機能したり、機能しなかったりします。Y M C Aでは、グループの仲間同士を繋ぎ、関係性を構築し、子どもたちに寄り添ったりするリーダーの存在がとても重要です。大人のように指示するのではなく、子どもたちと時に相談し、時に悩み、時にヒントを伝え、時に導き、肯定的な言葉で子どもたちをやる気にさせる存在がリーダーです。リーダーも子どもたちと活動を共にすることで、子どもたちと同様に「生きる力」を育みます。

さらに野外活動において、自然の美しさ、雄大さ、神秘性、厳しさなどは、直接人間の五感に働きかけ、人々に感動や驚きを与えます。また、体験活動を通して直接自然への理解を深めます。たとえば、にわか雨が降る前に冷たい風が吹くことや、雨が降った後に起こる川の水位が変化することなどです。そして、感性や好奇心も育みます。珍しい植物を見つけるとわくわくしたり、雨上がりの虹を見つけみんなで目を輝かせて空を見上げたり、“どきどき”“わくわく”しながら考えることなどです。それを一人ではなく、「仲間と共有する」ことこそがY M C Aで行っているグループ活動の醍醐味なのです。

情報化社会における間接体験や疑似体験の増加により、「リアルな体験」の機会が少なくなってきました。さらに現在、コロナ禍の影響で「リアルな体験」する機会が激減しています。「リアルな体験」は人間の五感に刺激を与えます。特に自然の中で活動する野外活動では、「バーチャル」では決して得られない刺激を受け、感覚が研ぎ澄まされていきます。五感を働かせるには仲間との活動が大切です。一人では感じ難いことでも、仲間（リーダーも）との活動でお互いに気づき合う場が現れます。いろいろな活動を行ったり、環境を変えて活動したりすることで徐々に身に付いていきます。そして、その活動を共にするのは、学校の仲間や兄弟・姉妹、幼なじみ以外の仲間であることがY M C Aの特徴であり、効果を上げるために重要な要素です。キャンプ毎に一緒に活動する仲間が違い、新しい繋がりが構築されます。後にキャンプで再会した時の感動は、同じ体験をしたことでより一層強まります。毎月実施する野外活動（アドベンチャー）では、月に1度再会する特別な仲間となります。そしてY M C Aで出会い、繋がる仲間は子どもたちにとってかけがえのない宝物になり、Y M C Aが家庭や学校以外の大切な居場所となります。

Y M C Aのキャンプ・野外活動は、「リアルな体験」によって子どもたちの「生きる力」を育みます。この夏のキャンプ・野外活動（アドベンチャー）をとおして、リーダーたちとともに多くの子どもたちの成長に関われることを楽しみにしています！



（健康教育事業部：黒田 敦）

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをおとし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人のかかわりを豊かに育み、隣人に仕えよう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

「保育園で学んだこと 心の土台に」

(佐藤 愛さん 佐藤 旬さん母)

加茂保育園との出会いは、友人のお子さんが通っていて夏祭りに誘ってもらった事でした。園の雰囲気や先生方の笑顔に、当時8か月だった上の子を「この保育園に通わせたい!」と思い、願い叶って入園。上の子を2012年に預け始めてから、下の子が卒園する今年までお世話になっています。

先生方の子どもを見守る温かな眼差しや1人1人に丁寧に向き合う心、家庭ではできないような様々な活動など保育園生活でたくさんの愛情・刺激をもらい、我が子たちは心も身体も大きく真っ直ぐ成長する事ができました。

子どもたちだけでなく、私自身もたくさん支えていただきました。私の小さな変化に気付いて声を掛けてくれたり、労いの言葉をくれたり。そんな優しさについて甘えてしまい「ちょっといいですか?涙」と先生方に泣きつく事もありましたが、お忙しい中、嫌な顔ひとつせず、いつも話を聞いてくださり、心が軽くなるのを感じていました。

また連絡ノートには心のこもったエピソードが記入されていて、仕事で心の余裕もなかった私にとって、今も"あの頃"を思い出しながら見返す事ができる大切な宝物となっています。親子共々安心して長年通わせていただいて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。来春でお別れしてしまうのは寂しいですが、子どもたちは保育園で学んだ事が心の土台となり、これからも様々なことを乗り越えていけることと思います。



Volunteer Volunteer Volunteer

富沢児童館
佐藤 佳子 さん

乳幼児プログラム等
ボランティア



『私の救世主をお母さんたちに広めたい!』

前職の保育園の近くにあり、身近な存在であったことで思い切って電話をかけたことから富沢児童館との繋がりが始まりました。

最初は長期休暇中のリーダーとして、でしたが自分の経験から、「子育てをしているお母さんたちに寄り添いたい」という想いもあり、定期的に富沢児童館での活動をさせていただけることとなりました。

私自身三つ子の母で、子育ての大変さや孤独、どうしようもない気持ちの変化など身を持って経験していました。もちろん子育ての喜びもありますが、毎日24時間365日お母さんに休みはありません。子どもたちが小さい頃は特に、何をして過ごしたらいいのか日々悩んでいました。保育士としての経験はもちろん役には立つけれど、我が子の前で職業は関係なく、母としては新米で、奮闘の毎日だったことを思い出します。そんな中出会ったのが『わらべうたベビーマッサージと産後ダンス』でした。オリジナルのわらべうたに合わせて触れあったり、同じ歌で踊りながら寝かしつけもでき、さらにお母さんもリフレッシュできる、母としてはいいことだらけのものでした。資格を取得し我が家でも実践。私の救世主となってくれました。いいものは世のお母さんたちにも広めたい!そんな私の想いを繋いでくれるのが富沢児童館です。

富沢児童館での活動は毎回ワクワクします。どんな出会いがあるかな、どんな反応が返って来るかな、お子さんはもちろんお母さんたちの笑顔を見られるかな。そんなことを思いながら準備をするのが楽しいです。1時間のプログラムの中で、一つでもお土産にできる何かがあって、子育ての中で使える一つのツールとしてくれたら嬉しいなと思っています。

今はコロナ禍で活動が難しい面もありますが、現状が改善し、たくさんの笑顔に出会えることを心から楽しみにしています。

『石巻広域クラブ 活動報告』（石巻広域ワイズメンズクラブ 会長：大林 健太郎 さん）

ー 東日本大震災から10年、石巻広域クラブが設立されてから5年で5周年を迎えましたー

大震災直後に開設された東京YMCA所管の石巻ボランティア支援センターが2016年に4月に仙台YMCAに移管され、現在は、立町地区から石巻栄光教会(川上牧師)の旧園舎2階に石巻センターが移転し、そこを拠点として活動を続けております。新型コロナ禍の折でしたが、感染対策を講じながら去る3月11日には震災発生から10年を記念して「3.11記念礼拝と追悼の集い」を石巻栄光教会礼拝堂と石巻センターで無事開催する事ができました。仙台YMCAの各施設の皆さんや全国のワイズやYMCA関係者とは、オンラインでつなぎ参加していただきました。被災地の復興事業はほぼ完了しましたが、心の復興はいまだ道半ばの状況が続きます。石巻広域クラブは大震災からの10年を契機



ストレッチヨガ教室



「3.11 子ども文庫」みんなで



「3.11 子ども文庫」の様子

に「東日本大震災10年記念プロジェクト」をスタートしました。その中から2つのYMCAとの共催プログラムをご紹介します。

ひとつ目は「3.11子ども文庫の会」の開催です。石巻センターがある2階ホールには約1万冊ともいわれる絵本があります。津波被災地の子どもたちに「3・11」の出来事を「文庫活動」を通して伝え、子どもたちの居場所を作り出す運動で、実行委員会を立ち上げ、昨年の11月から毎月1回のペースで通算7回開催しました。毎回、震災の絵本1冊を必ず紹介しています。東京のリトミック教室の子どもたちとはリモートでつなぎ、毎回季節に合わせた折り紙や工作等で交流しています。3月には仙台YMCA幼稚園の子どもたちの参加がありました。どなたでもリモートでも参加できます。毎回、土曜日の午後1時半から3時半まで開催しています。

ふたつ目は「YMCAストレッチヨガ教室」の開催です。石巻最大の新蛇田復興団地の集会所で2016年12月より仙台YMCAの金森千穂講師の指導で開催し、通算21回にもなります。大人気ですが、現在は新型コロナ禍への対応で参加人数を10名迄に制限して開催しています。これからも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(5月18日～6月2日)

維持会費

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員

・維持会員 A会員/10,000円、B会員/20,000円、C会員/30,000円

A会員 中島 恵 さん

B会員 加藤 研 さん

C会員 工藤 正剛 さん

◆法人会員 A会員/10,000円、B会員/30,000円、C会員/50,000円、D会員/100,000円

B会員 (有)親愛社様

◆パートナー会員 加藤 真紀子さん

一般会員・サポート会員を
随時募集中ですぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください

お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7634

FAX:022-222-2952